

原発 **0** にむかって

2013年4月17日 No.48

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

北中ブロック 新入職員48人が福島の実地研修

4月5日に日帰り、北中ブロックの新入職員48人と、福島県の被災地をめぐるしてきました。8時に池袋に集合して、北中ブロックの篠田事務局長よりバスのなかで挨拶をいただいて出発しました。バスのなかでは、各法人の紹介と新入職員の自己紹介(入職の思い・好きな食べ物・趣味・休日の過ごし方)を発表してもらい、「バナナが色も形も臭いも嫌い」「モモクロ好き」など自己紹介した後に、「未来への決断」という原発が日本に持ち込まれてきた経過などを解説したDVDを試聴することを事前の学習と位置づけました。

現地に着いて、浜通り医療生協の伊東達也理事長の講義を受けました。「福島の苦しみは現在も続いている。希望もない。展望もない。放射線量、賠償、県民の対立の問題に対して、裁判をおこしていこうと考えたことを説明していただき、「感情的な対立になるのではなく、データなどの客観的な事実と理解にもとづいた行動が必要である」と、また、「この裁判はお金がほしいから起こしている裁判ではない」ということを、他県の方に理解してもらいたいと話されました。午後は、小名浜生協病院の國井事務長にバスに同乗していただき、被災地めぐりを行いました。福島は、「会津」「中通り」「浜通り」の3つの地域に分かれます。雪の影響を受けない「浜通り」ということで、福島第一原子力発電所の立地する双葉町などからいわき市には、2万4千人の方が移られ住まわれておりますが、仕事もない現状で、行き場所がなくパチンコ屋などで時間をつぶす方などが目につくそうです。しかし、故郷を捨てさせられて、何もできない状況に置かれれば生きる気力などもなくしてしまうのではないかと國井事務長は話されていました。さて、黒い袋には、何が入っているのでしょうか。放射能に汚染された草が入っており、処分する場所が見当たらずに放置されております。私たちのバスの反対車線には、防護服というのでしょうか、原発労働者を乗せたバスが何台も通っていくのが確認できました。このことだけでも、事故の収束されていないことが分かります。帰りのバスの新入職員の感想交流では、福島の現状におもわず泣いて声でできなかった新入職員もあり、ひとりひとりが主権者である国民として、どのように行動をしていけばいいのか考えることができた取り組みとなりました。(城北地域福祉サービス協会 細見学)



東葛病院

山本太郎さん講演会開催

毎月11日に学習会等を企画している東葛病院・被ばく医療委員会が4月に「山本太郎さん講演会」を開催しました。「自分自身にウソはつけない」と行動に立ちあがった話に、150人の参加者からは「俳優が原発反対の活動へすすむ苦悩や覚悟が理解できた」「放射能や原子力発電でマスコミが伝えないことが、分かり易く話してくれて原子力発電と企業、政治、米国のからみが良く理解できた」などの感想が寄せられました。



6・2 原発ゼロをめざす中央集会

主催：原発をなくす全国連絡会

- 場所：明治公園
- 第一部：11:00 全国の運動交流を中心においたブース企画
- 第二部：13:00 原発ゼロの日本の実現、原発再稼働反対をアピールする集会
- 第三部：14:00 主張をアピールするデモ行進

デモ終了後、首都圏反原発連合主催の「反原発☆国会大包围」に合流